

交通政策審議会観光分科会 第40回 議事概要

1. 日程

令和3年4月21日（水）11時00分～12時30分

2. 場所

特別会議室（中央合同庁舎第3号館11階）

3. 出席者

秋田委員、奥委員、恩蔵委員、篠原委員、住野委員、伊達委員、野田委員、原田委員、萬年委員、矢ヶ崎委員

観光庁

4. 議題

- ・令和3年版「観光白書（案）」について

5. 議事概要

観光庁より議題について、資料に沿って説明。その後、委員による意見交換を実施。主な意見は以下のとおり。

○ 委員からの主な意見

- ✓ アフターコロナを意識した高単価、小グループの地場産業と連携した産業文化体験コンテンツは誘客多角化、域内連携事業においてもメインの軸としてあり、需要があるという確信があるので、1つの観光の柱とすべき。
- ✓ Go Toトラベル事業は密を避ける観点から、平日限りとして、分散につなげ、Go Toトラベル事業が長期にわたり続くよう検討してほしい。
- ✓ 感染拡大防止策の徹底について、観光庁からお墨付きを出している取組を検証・評価した上で、その内容を白書で取り上げるべき。
- ✓ 現在、文化庁が中心となって、アート産業の活性化を図ろうとしており、観光産業の活性化にも寄与する。観光庁も関わっているので、この部分も白書で触れるべき。
- ✓ MICEは新型コロナウイルス感染症でのダメージが最も大きいと思うので、今後の展望を含めて白書で取り上げるべき。
- ✓ マイクロツーリズムが、今後、新しいスタイルとして定着するのか。コロナ禍で単価が上がっているのか、平日の旅行が増えているのかという変化を取り上げるべき。

- ✓ Go To トラベル事業について、白書で平日と休日の利用状況、一人当たり何回利用したかを取り上げることで、本事業をよりよくするための素材とすべき。
- ✓ 緊急事態宣言中、不要不急の外出自粛や県を跨ぐ移動の自粛が呼びかけられ、国民は旅行をしていいのか、行きたいけど駄目なのか観光庁からは観光の自粛は言えないだろうが、近場で観光をとく、観光庁として緊急事態宣言中の観光の取り扱いを取り上げるべき。一般の人に響くような内容を書くべき。
- ✓ 月別の数字を大きく取り上げるべき。緊急事態宣言による影響などがはっきりする。
- ✓ Go To トラベル事業について、曜日とか時期とか多様性を含めた中でどう進めていくのかを考えながら再開していくべき。
- ✓ 「新しい旅のエチケット」について、エチケット対策についての取組がどの程度できているのか、できていないのかの観点も盛り込むべき。
- ✓ ワクチン証明書を活用することによる観光の再開について検討するべき。
- ✓ マイクロツーリズムは、関心が高いのでもう少し深掘りすべき。どこの居住地からどこの県へ移動したか等のデータがあれば旅行業に携わる者にとって、白書がより有意義になる。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症収束後の国内旅行動向について、日本の国民が国内の中でどういう期待を持っているのかということに関しては、もう少しデータがあるべき。
- ✓ 観光のトレンドの変化について、滞在型観光等に関するベストプラクティスはこういった基準で取り上げているのか、オンラインツアーなどについても、色々な参考になるものを白書でもっと取り上げるべき。
- ✓ マイクロツーリズムについては、新型コロナウイルス感染症収束後でもニーズは強い。国内の大きな市場は東京である。東京近隣の観光地は潤っていて、それ以外は厳しいといった課題がある。
- ✓ 事業者支援について、今年も耐える年になる。借り入れ等を活用して事業を継続していくなかで、中長期的な施策として、DX、サステナビリティの推進があるが、事業者の状況からして取り組む余裕がないところもあるかと思う。中長期的な施策と、事業の維持や、感染拡大防止の徹底といったような短期間的な施策を区別して順序だてて表示するのが現実的である。
- ✓ シティホテルについて、なぜここまで落ち込みが大きいのかを分析すべき。
- ✓ 雇用調整助成金について、教育訓練制度の補助制度は何のためにあったのかを深掘りすべき。どのような利用状況なのかのデータを取るべき。また、観光人材の底上げに資する内容になっているか、活用しなかった場合、なぜ活用しなかったのかなどチェックが必要である。
- ✓ 次の政策として、人材スキルを磨くための共通基盤制度の整備といったものも考

えてみるべき。例えばAIのトレーニング教材というものも教育の中では出てきている。

- ✓ Go To トラベル事業では高価格帯の利用が多い等の報道があるが、低価格帯が多いと白書では示している。政策として意図どおり進んでいるのかというものを、リアルタイムでデータが集められる仕組みをつくるべきで、それによって制度をブラッシュアップしていくことが必要である。そういう意味でデータが処理され、見える化し、分析して政策に反映される仕組みの構築が必要だということも、示唆として白書に入れるべき。
- ✓ DXについて、観光政策の実行という意味においても考えるべき。Go To トラベル事業のクーポン事務処理が煩雑な状況であったが、体制をどうしていくのか示していくべき。行政としてデジタルプラットフォームの構築が必要であり、通常時から事業者と繋がっていることが重要。非常時でも生産性を上げていくために準備していくことが必要であり、その点を示唆として白書に入れるべき。
- ✓ ワークーションを実施する意義を取り上げていくべき。有給休暇取得率の変化等のデータや、企業の働き方の変化、テレワーク環境が整っていること、教育のICT環境が整っていくことを示唆しながら、ワークーションのあり方をどのように考えていくのかも取り上げていくべき。
- ✓ 生産性についても深掘りしながら産業構造を変えていくことを示唆すべき。
- ✓ この一年の施策の効果や課題も取り上げるべき。
- ✓ 観光のトレンドの変化について、一過性のものなのか、恒久的なものなのか見極めが必要。ワークーションは新型コロナウイルス感染症後も続くと考えており、もっと重点的に施策を考えるべき。もう少し分析して新型コロナウイルス感染症後にも選択されるものなのか、どうすれば選択されるのか分析した上で、政策を考えていくべき。
- ✓ グリーントラベルの視点が弱い。グリーンでなければ旅行商品が選ばれない時代が今後来る。
- ✓ Go To トラベル事業の再開を待つのではなく、今時間があるときに人材育成プログラムなどを通じてきめ細かい支援をしていくべき。
- ✓ よくまとまっている。各統計が同じレベルで保たれており、非常時でも分析にも耐え得るものになっている。観光分野のデータが科学化されてきていることを確認できた。
- ✓ 全体的に市場が傷んでしまい、経験したことの無い状況の中で、可能性のある市場を小さくとも見つけて、どのように段階的に回復させていったのかというプロセス、そのためのノウハウが記されていると、後世の方にも参考になる。
- ✓ マイクロツーリズムというのは一つ大事なキーワード。近隣流動、近隣からの需要というのは当たり前のことだが、マイクロツーリズムという言葉をつけて、明確に

ここに向かって頑張ろうという意識合わせができるという言葉の力が大きかったのではないかと思う。

- ✓ 危機を乗り越えていく最初の部分は、皆さん方の気持ちをどういうふうに集めていくのかというところが第一歩であって、その先に有効なノウハウ、アプローチというものが利いてくる段階がある。危機のときには、まずは、何とか乗り越えられるんだというマインドが大事である。マインドを醸成して対応した地域をコラムで紹介すべき。
- ✓ MICE について、京都での国際会議の開催における経緯等があるとよい。
- ✓ 旅の本質は人の本質に近いところにあり、旅行需要はなくなることをメッセージとして入れるべき。